

平成20年度 長野県松本筑摩高等学校 定時制 午前部・午後部 学校評価表 中間評価

定時制午前部・午後部教育目標		重点目標（中長期的目標）		上半期の成果
三部からなる定時制の特色と単位制の趣旨とを活かして、様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒・保護者の思いに応える教育を行う。		単位制の一層の推進・充実を図るとともに、生徒が各部の特徴を活かしながら、基礎学力と基本的な生活習慣とを身につけ、よりよい学校生活を送ることができるようにする。		
		今年度の重点目標		上半期の成果
		1. 生徒一人ひとりの個性の尊重と自主性の育成 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 基礎学力の定着と進路指導の充実		1. くれき野祭において、例年より多くの自主的な取り組みが見られた。
領域	対象	評価項目	評価の観点	上半期の成果
教 育 活 動	教育課程	開講科目の充実	生徒・保護者の希望がかなえられるような講座の設定、および編成ができたか。	可能な限り希望に添う編成に努めた。多くの公開(社会人聴講)講座を開設できた。
	学習指導	基礎・基本の定着	可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。 生徒による授業評価を行い、活用できたか。	基礎学力の定着と伸長を図るために、習熟度別授業が展開できた。 授業評価については、時期と方法について検討を加えながら計画を進めている。
		個に即した指導	必要とする学力を個に即して着ける指導ができたか。	個別指導や個人面談などを適宜実施している。
	生徒指導	ルール・マナーに対する意識の向上	基本的な生活習慣の確立と関連付けた具体的指導ができたか。 生徒会と連携できたか。	集会時の整列など、集団の中でのマナーについてその場での具体的指導が出来た。
		不登校生徒などへの対応	情報を共有して支援できたか。 保護者との連携は強化できたか。 外部専門家などと連携できたか。	長期休業中に時間を確保し、支援方法についてのワークショップがもてた。 相談室と保健室が窓口となり、諸問題について引き続き外部専門家と連携が出来ている。
	暴力やいじめの防止	暴力やいじめの防止	年次会・職員相互で連携できたか。 具体策を持って取り組めたか。 人権感覚が向上したか。	4月に全校向けの生活指導通信を発行し、各クラスでタイムリーなHRがもてた。 人権教育では、波田町出身の三澤拓さん(パラリンピックスキー日本代表)の有意義な講演会で、生徒が人権問題を身近に感じる事が出来た。
		喫煙防止	校内外の巡視および啓蒙活動はできたか。	個別指導と声かけで、夏休み以降指導件数が減少している。
		交通安全指導	原付通学許可者への講習ができたか。 LHRなどを活用した指導ができたか。	教習所など外部専門機関に問い合わせを企画を進めた。(校内独自の講習会に変更予定。)
	進路指導	望ましい職業観・勤労観の育成と進路意識の高揚	卒業までを見通した進路ガイダンスを充実させることができたか。 面談、履修指導、適性検査を通して職業選択できる指導ができたか。	生徒の希望や適性に応じた進路指導を担任と協力して行うことができた。
		進学指導の充実	定時制ハンドブック(進路編)を使い、LHRや年次別ガイダンスで指導できたか。 進路指導室の各種情報誌・情報端末利用、説明会などで生徒ひとりひとりに行き届いた指導ができたか。	進学、就職試験に対応できる学力・コミュニケーションスキルなどを高める取り組みを係や教科で支援したい。
就職指導の充実		総合学習やホームルームの進路学習の時間を有効に使用し、各自の進路に対する意識を高めることができたか。 就職希望者に対してマナー教育を含めた個別指導を徹底できたか。	全体への進路学習日を2回もてた。	
生徒会活動	くれき野祭の充実	それぞれの役割分担の中で、多くの生徒が主体的に取り組めたか。	文化祭の準備・片付けをクラスとスタッフの2つに分担し、当日の活動は、部活動とスタッフで行った。文化祭への取り組みが消極的な生徒もいたが、例年以上にそれぞれの活動に対して、主体的に取り組めた生徒がいた。全日制が来年度以降、閉課程になるので午前・午後部、夜間部、通信部の3パートで連携しながら、新しい文化祭の日程・内容を考えなければならない。	
	委員会活動の充実	各行事や活動計画に向けて、積極的に取り組めたか。	日々の生活改善のため、ポスターによる呼びかけ、生徒昇降口の花の育成、体育祭の運営、生徒会選挙運営など各委員会の年間計画に基づいて活動することができた。	
部活動	部活動の位置づけ	生徒の部活動への思いが変容する中で、発足についての規約の改正や活動の仕方等について、生徒・教職員で話し合うことができたか。	生徒・保護者・教職員の会で、新しい部の発足や新しい部室がほしいなどその思いを生徒から聞くことができた。生徒会として、新しい部活動設立の規約・部室の使い方の規約などを生徒とともに考えていきたい。	
学 校 運 営	地域との連携	公開授業・学校説明会の充実と社会人聴講生の受け入れ	公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。 地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。	5月に授業参観を実施した。社会人向けの5講座(うち午後3)を開講して、聴講生が在校生と共に学習しており、好評である。また7月に松本市との共催による「もの作り講座」を開講したところ、定員を上回る参加者があった。11月にも、もう1講座の実施を予定している。
	組織の運営	単位制の一層の充実	「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。	「内規集」は改訂に向けて検討中である。「定時制ハンドブック」は毎年11月改訂に向けて検討中である。
		組織の充実	学習指導と進路指導をより充実させるための組織づくりができたか。	校務分掌との関連で検討中である。
	校務分掌の検討	校務分掌の検討	仕事の分担は適正だったか。 意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。	来年度(全日制閉課程後)に向けた根本的な見直しを検討中である。
		研修	カウンセリング研修	不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。 上記生徒へ適切に対応するための研修ができたか。
授業法の研修	学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。 校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。		初任者研修に伴い、複数回の研究授業を実施した。今後も実施の方向で計画中である。	